

かがやき

桶川市男女共同参画情報紙【18号】

『男女共同参画フォーラム 2013』開催

2月23日(土)、さいたま文学館ホールにおいて「男女共同参画フォーラム 2013」が開催されました。3・11の東日本大震災から2年、被災地の実態をもとに災害と男女共同参画・多様性の視点を踏まえた地域防災対策の必要性について、東日本大震災女性支援ネットワーク研修プロジェクトコーディネーターの浅野幸子氏よりお話をいただきました。



大規模災害における被災経験・困難は、女性と男性では異なり、特に女性は多様な困難に見舞われる事が多かったが、今までは仕方がないこととして国内では十分に問題として取り上げられてこなかった。その結果、3・11東日本大震災時には、女性への暴力の増加（被災者・支援者）女性用物資がいきわたらない、避難生活における固定的性別役割分担による負担（女性が炊き出し班を担う、避難所責任者は大半が男性、仕事を持つ女性は仕事と家庭の板ばさみ）等の多くの問題が生じたとのこと。

今後は、男女共同参画・多様性（性別、性自認、年齢、障がいの有無や種類、国籍や母国

語の違い、家族構成や就労状況等）の視点を踏まえた人権に配慮した防災政策・支援が必要であり、既に国の防災基本計画には「男女双方の視点で対策」「女性の参画」の必要性が明記されるも、現場はこれから・・・の段階だそうです。



「自分は女性（男性）である」という自己認識のこと。

特集 ■ 私たちが住むまち「桶川の防災対策」を知る。

『桶川市の防災対策』について、 安心安全課 防災担当に話をうかがいました！

インタビュー： 男女共同参画桶川市民の会

問1 市の「防災計画」が見直される
そうですが、主にどのような点
がかわりますか？

回答

計画を活用しやすくするため、災害別の構成とし、帰宅困難者対策と原子力放射能対策の記載を充実させました。

なお、帰宅困難者の対策としては、新たに市民ホールを一時滞在避難所に位置付けました。また、女性用備品の充実を図ったり、避難所に女性相談員を配置するなど女性のニーズに配慮した記載が増えました。

問3 防災についての考え方、関心に男女差はあると思いますか。また、女性が力をつけてほしい分野がありますか。

回答

避難所などでも、男性でなければならないことは力仕事ぐらいで、防災対策に男女の別はありません。女性も積極的に防災訓練や地域の自主防災会に参加し、是非、防災に関心をもっていただければと思います。市でも、自主防災会に女性が参加していただけるよう働きかけたいと思います

問2 防災会議委員、市職員、自主防災会の男女の比率は？

回答

防災会議の委員は、28名。うち女性は4名です。(14%)今年から女性が増えましたが、防災会議委員となる関係機関の代表がいわゆる充て職となっているため、女性が少ないのが現状です。

市職員は、平成24年4月1日現在で職員430名のうち152名が女性です。

(35.3%)

自主防災会については、ほとんどが男性で高齢の方が多いと思います。ちなみに、安心安全課職員は全て男性職員です。

問4 いざという時の体制はどうなっていますか？

回答

震度4以上の地震が発生した場合、防災担当である安心安全課職員全員が市役所に、震度5以上になりますと、各職員(地区隊)が予め定められた避難所(小学校7校)に集まることとなっています。

避難所設置の初動は市職員が行うことになり、その後の運営は避難所において地域の自主運営方式に移ります。しかし、市職員が被災者の場合など、全員が集まるとは限らず人手不足になることも考えられます。地域のみなさん、一人ひとりの力が必要です。

女性も積極的に参画し、
多様な視点を活かした防災対策を！



防災対策に、「男も女も」ありません。

地域のみなさん、一人ひとりの『力』が必要となります。

問5 市の備蓄は、どこにどのようなものがありますか？

回答

市内小・中学校、市役所、市民ホールや農業センターなど公共施設にあります。食料について言えば、防災計画では最低3日分の食料を備蓄する必要があるとされています。1日分は個人で、残り2日分は市と県で対応することになっていますが、市民のみなさんも日頃から各自で備蓄していただけるよう、ご協力をお願いいたします。



『自分の身は自分で守る』
が基本です。

問7 安心安全課として伝えたいこと、災害時の苦勞話などがありましたらお聞かせください。

回答

東日本大震災の時は、市役所に泊まり込み揺れがくる度に庁舎の外へ飛び出しました。横になる場所がないため、机に伏して仮眠をとりました。また、日頃から携帯電話を枕元に置き、呼び出しに備えています。防災は「自分の身は自分で守る」が基本です。市民のみなさんには、防災訓練にご参加いただくこと、家庭でできる対策を一つずつ取り組んでいただければと思っています。

備蓄や持ち出し品を備えるなど、
できることから始めましょう。

問6 防災対策として、家庭および個人ではどのようなことが大切ですか？

回答

- ・家族の避難先や集合場所を決めておく
- ・3日分の食料を保管する
- ・転倒防止のため、家具などを固定する
- ・家具のない部屋を一つ設けておく

Etc.

災害に関する正確な情報を入手することが重要ですので、市の防災情報メールの登録をお勧めします。

桶川市防災メール登録方法

mailto:okegawa-city_subscribe@jam2.oshirase-plus.jp

(空メールを送信し、
自動返信されたメールに従い登録してください。)



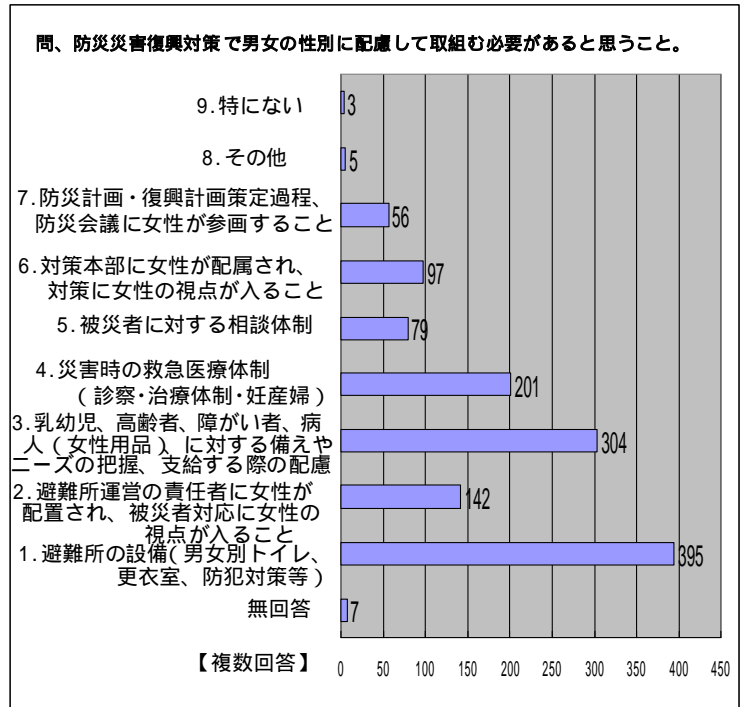
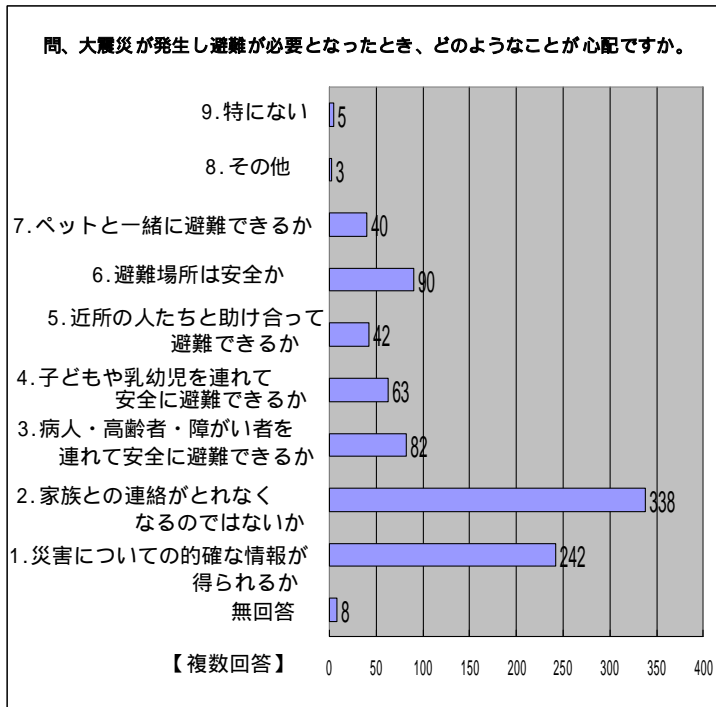
QRコード



(1月19日 桶川市防災訓練の様子)

防災に関する市民の意識は？

市では、11月に「男女共同参画に関する市民意識調査」を実施し、482名の市民の皆様から貴重な回答をいただきました。「防災」に関する市民の意識では、次のような結果となっています。



ひとりで悩まないで

アソシエをご利用ください！

女性としてのさまざまな悩み・・・
 夫婦や子ども、仕事や職場、友人や自分自身など
 誰にも話せなかった悩み、話してみませんか。
 女性相談専門のカウンセラーが、お受けします。

相談日：毎月第1・3月曜日（原則）
 10:00～12:00 13:00～16:00
 （相談時間は一人50分）

場 所：アソシエ（勤労青少年ホーム内）
 ・ 相談は予約制 ・ 秘密は厳守します
 ・ 相談は面接です

予約・問合せ
 人権・男女共同参画課
 786-3211

～男女共同参画コーナー～

男女共同参画社会の実現を目指して、学習、交流する場です。どなたでもご利用できます。

場 所：勤労青少年ホーム内
 開設時間：9:00～21:30（原則）
 （勤労青少年ホームと同じ）

利用方法：事務室カウンターの受付簿にご記入ください。

その他：営利目的、政治・宗教の団体等のご利用はできません。
 室内での飲食はご遠慮ください



編集後記 浅野先生からのお話は、男女共同参画を踏まえた災害対策が必要であり、それを実現するためにも女性が参画することがとても大切だと教えていただきました。とても素晴らしいお話しの内容で、もっと多くの市民の皆様にも聞いて欲しいと感じました。
 市民編集委員一同